企業における感染症対策で 有効なリスクコミュニケーション

株式会社シマノ 菅秀太郎

SHIMANO

COI開示

発表者名: 菅 秀太郎

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべき COI関係にある企業などはありません。

安全衛生委員会が情報発信と合意形成の場

- ▶ 風疹抗体検査と風疹ワクチン接種 (2019年 弊社での対応を紹介)
- ▶ 情報発信にはリスクコミュニケーション6原則
- > 安全に振りすぎないバランス重視の対策

日本では 2012-2013年の風疹大流行(感染者約17,000人) 2018-2019年にも流行(感染者5,000人以上)

日本は世界3位の風疹流行国(2020年当時)

2019年3月~2020年2月の風疹発生数

1位 中国 31,133

2位 インド 2,924

3位 日本 <u>1,640</u> (人口比では世界2位)

4位 ニジェール 1,628

5位 南アフリカ 1,318

6位 パキスタン 1,209

Global Measles and Rubella Monthly Update (Accessed on June 10, 2020)

なぜ風疹が流行してるのか??

日本では、先天性風疹症候群(CRS, Congenital rubella syndrome)予防を目的として女子中学生のみが接種対象となっていた期間があった。

1962年4月2日~1979年4月1日生まれの成人男性は小児期に定期接種を受けていない。 1979年4月2日生まれ以降からは、男女ともに定期接種となったが、 集団接種から個別に医療機関を受診し接種する制度となったため接種率は低かった。 1995年以降、小児期に麻疹・風疹(MR)ワクチンを接種する定期接種が採用された。



上記の背景から日本では風疹の輸入感染が起きやすく 2012-2014年に流行があり、計45例のCRSが確定診断された (Y. Mori, et al. Front Microbiol, 2017)

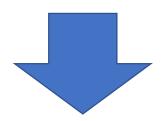
厚労省目標:風疹の国内排除

抗体保有率が低い(約80%)と推測される 昭和37年4月2日~昭和54年4月1日に生まれた男性 に対する対策として検査・ワクチンのクーポン配布

- ①2022年12月までに、 対象世代の男性の抗体保有率を85%に引き上げる
- ②2024年度末までに、 対象世代の男性の抗体保有率を90%に引き上げる

風疹の<u>感染機会は「職場」</u>である 30-40代の男性の感染者が多数 感染機会の多くは職場と推定

風疹流行に関する緊急情報 国立感染症研究所 感染症疫学センター



2019年7月 安全衛生委員会で周知 2019年8月 対象年齢の抗体検査実施 2019年9-12月 対象年齢のワクチン接種

安全衛生委員会が情報発信と合意形成の場

- ▶ 風疹抗体検査と風疹ワクチン接種
- ▶ 情報発信にはリスクコミュニケーション6原則
- > 安全に振りすぎないバランスの取れた対策

企業での感染症対策で大変だったこと

病院の標準予防策を軸として考え やることを決め、<u>やらないことも決めた</u>

COVID-19の初期段階の振り返り



株式会社シマノ 本社 大阪府堺市

本社社員1300人 産業医1人+保健師1人

2020年2月中旬 DP号感染が医療機関へ与える影響が伝わる

*感染症学会からの緊急報告

- ▶ 関東地方では、呼吸管理を必要とする重症者(ECMO、人工呼吸管理)が多数入院しており、通常の救急医療・集中医療体制への影響が既に出始めている。
- ▶ 医療スタッフへのメンタルケアが必要。
- ➤ マスク・手袋・防護服が不足しており、早急な対応が必要。



世間の認識との大きなギャップを感じた。

メディアが使う重症という言葉の曖昧さ \rightarrow <u>重症の中でも致命的 (life threatening)</u> インフルエンザと比較することの限界 \rightarrow <u>分かっていること/分からないことの整理</u> DP号という対岸の火事 \rightarrow <u>感染拡大の可能性という当事者意識</u>

→ <u>リスクや感染対策を正しく伝えることに重点を置いた</u>

感染症の危機緊急時における リスクコミニュケーションの6つの原則

Be First(速やかに共有する) 情報を伝えるだけでなく、「誰が」伝えるかが重要である
Be Right(正しい情報を) 「分かっていること」と「分かっていないこと」の両方を伝える
Be Credible(信頼を得る) 「科学的に根拠のある情報」が受け手の信頼を高める
Express Empathy(気持ちに寄り添う) 受け手の視点に立って情報を伝える
Promote Action(行動を支える) 一人ひとりの行動が感染予防につながることを強調する
Show Respect(相手を尊重する) 相手の立場や権利を思いやる伝え方を心がける

米国疾病予防管理センター(CDC)が公表している「CERC in an Infectious Disease Outbreak (感染症のアウトブレイクによる危機と緊急事態におけるリスクコミュニケーション)」を日本語訳

会社における

感染症の危機緊急時における リスクコミニュケーションの6つの原則

Be Right(正しい情報を)「分かっていること」と「分かっていた

Be First(速やかに共有する) 情報を伝えるだけでなく、「誰が」伝えるかが重要である

感染症に関する知識や見通し(情報分析・提言) → 産業医 社内での具体的対策 → 総務など間接部門 会社全体の方針 → 緊急対策本部

+どこで・どんな手段で伝えるかも重要 <u>リスク評価だけではなく、対策の「決定」にも関与</u> 弊社は安全衛生委員会を全社通知の場とした

会社における

感染症の危機緊急時における リスクコミニュケーションの6つの原則

Be First(速やかに共有する)情報を伝えるだけでなく、「誰が」伝えるかが重要である

Be Right(正しい情報を)「分かっていること」と「分かっていないこと」の両方を伝える

Be Credible(信頼を得る) 「科学的に根拠のある情報」が対しての信頼を高める

Express Empathy(気持ちに寄り添う)

Promote Action(行動を支える) 一人

Show Respect(相手を尊重する) 相望

混乱防止 一貫性 安心感と課題認識

とを強調する

がける

アップデートが大事

COVID-19は不明な点が多い

≠ 感染対策が分からない

基本的な感染対策の延長に COVID-19対策があると考える

感染対策の考え方

ウイルスか細菌か真菌か? 感染経路は? 予防接種はあるか? 予防方法はあるか? 特異的な治療薬はあるか? 誰にリスクがあるか? 感染機会が多い場所は? 感染力は?

感染対策の考え方

ウイルスなのか細菌なのか? 感染経路は?

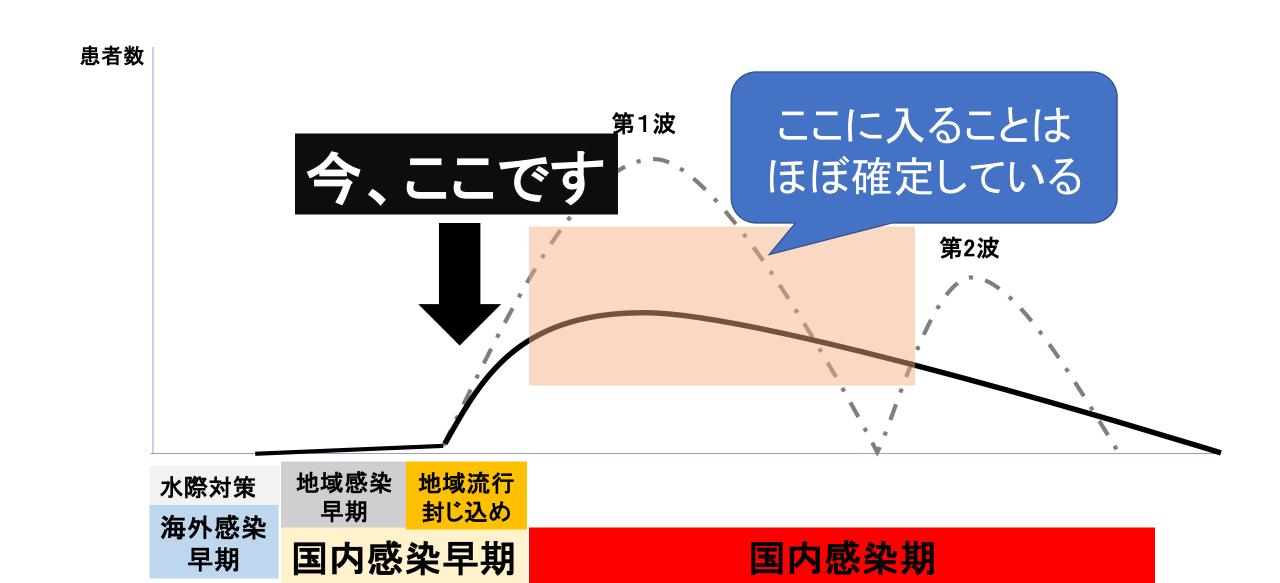
予防接種はあるのか?
予防方法はあるのか?

感染対策の考え方

コロナ ウイルス 感染である 感染経路 は接触・飛沫感染である

> 予防方法は手洗い・手指アルコール消毒 (症状者はマスク・咳エチケット) 高リスクは高齢者や基礎疾患を有する者 感染機会が多い場所は人混み、閉鎖空間 感染力はインフルエンザよりやや高い

The 1918 influenza pandemic: insights for the 21st century. Morens DM, Fauci AS.J Infect Dis. 2007 Apr 1;195(7):1018-28.



会社における

感染症の危機緊急時における リスクコミニュケーションの6つの原則

Be First(速やかに共有する) 情報を伝えるだけでなく、「誰が」伝えるかが重要である Be Right(正しい情報を)「分かっていること」と「分かっていないこと」の両方を伝える

Be Credible(信頼を得る)「科学的に根拠のある情報」が受け手の信頼を高める

Express Empathy(気持ちに寄り添う) 受 (つりらに立って情報を伝える)

Promot

Show F

学術論文(NEJM,BMJを中心に) IDATEN・感染症学会のメール 日経メディカルなど

マスコミ報道(yahooニュース等)は参考程度に・・・・

つながることを強調する

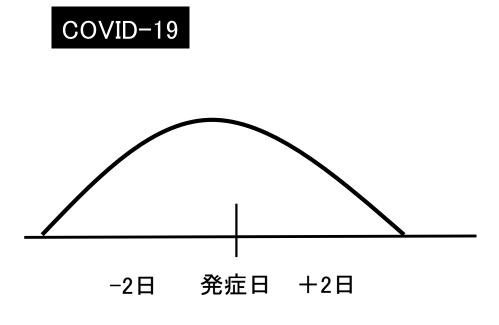
云え方を心がける

2020年4月22日 弊社発表資料

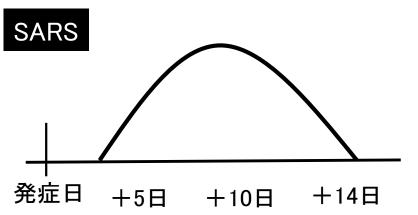
厄介な性質:発症前後が感染力のピーク

季節性インフルエンザ

発症日



発症2-3日前後に感染拡大





十5日

SARS,インフルエンザは 症状が出てから 周囲へ感染させていく

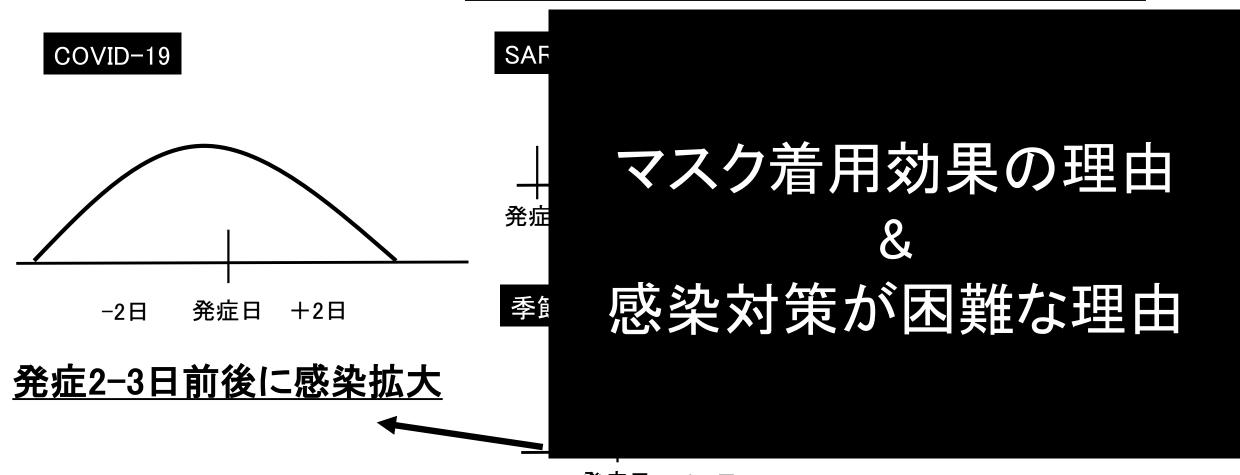


新型コロナウイルスは 症状出る前にかなりの 感染力を持つ

Temporal dynamics in viral shedding and transmissibility of COVID-19 Nature medicine. https://doi.org/10.1038/s41591-020-0869-5

2020年4月22日 弊社発表資料

厄介な性質: 発症前後が感染力のピーク



発症日 +5日

Temporal dynamics in viral shedding and transmissibility of COVID-19 Nature medicine. https://doi.org/10.1038/s41591-020-0869-5

2020年5月20日 弊社発表資料

重症化 リスク因子

中国の データ

致死率と年齢が比例し、高血圧、糖尿病、心疾患、 慢性呼吸器疾患で致死率が高い

Guan WJ, et al. Clinical characteristics of coronavirus disease 2019 in China. N Engl J Med. 2020.

米国の データ

入院のリスク因子は高齢(75歳以上でオッズ比66.8) 肥満(BMI40以上で同6.2)、および心不全(同4.3)

Jennifer Lighter, et al. Obesity in patients younger than 60 years is a risk factor for Covid-19 hospital admission. Clinical Infectious Diseases, 09 April 2020

2020年5月20日 弊社発表資料

- ✓ 死亡率に人種差がある?
- ✓ 重症化する基礎疾患は同じ
- ✓ 高年齢がリスクとしては最も高い

+

解剖•病理学的知見

- ✓ 肺・心臓・腎臓の微小血管内に血栓・炎症
- ✓ 好中球の暴走

要点

- ① 感染に人種差? 年齢差
- ② 重症化に免疫・凝固システムの問題
- ③ 血管内皮障害で致死的

小児や若年者に死亡率が低い理由かも?

2020年5月20日 弊社発表資料

要点

リベネーン作品

生活習慣病の結果

- ② 重症化に免疫・凝
- ③ 血管内皮障害で致死的

糖尿病、高血圧、心不全、腎不全、肥満(生活習慣病)

→ Stay homeで悪化させていけない





- ・公園は空いた時間、場所を選ぶ
- ・筋トレやヨガは自宅で動画を活用
- ・ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとる
- ・予約制を利用してゆったりと
- ・狭い部屋での長居は避ける
- ・歌や応援は距離をとるかオンラインで



+ 産業保健としても支援を開始

政府 新しい生活様式

会社における

感染症の危機緊急時における リスクコミニュケーションの6つの原則

Be First(速やかに共有する) 情報を伝えるだけでなく、「誰が」伝えるかが重要である Be Right(正しい情報を)「分かっていること」と「分かっていないこと」の両方を伝える Be Credible(信頼を得る)「科学的に根拠のある情報」が受け手の信頼を高める

Express Empathy(気持ちに寄り添う) 受け手の視点に立って情報を伝える

Promote Action(行動を支える) 一人ひとりの行動、ではる時につながることを強調する

Show Respect

感染症の知識がゼロの人へ分かり易く、 かつ本質を解説することを心がけた。

全体発表の前には総務課長に理解を事前確認

ウイルス感染の原則

動物一ヒトヒトヒトや物ーヒト

2020年4月22日 弊社発表資料

新型コロナウイルス(COVID-19)
× 動物一ヒト (コウモリからヒト?)
◎ ヒトーヒト
△~○ヒトー物ーヒト

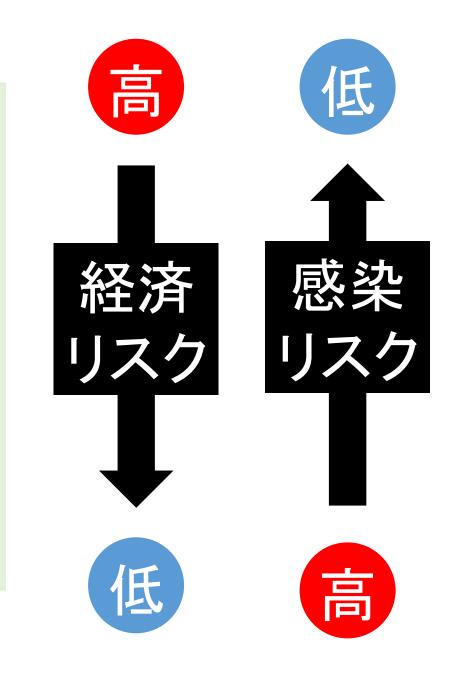
2020年4月22日 弊社発表資料

外出して人と会わない

人と接触しない(距離をとる)

触れたら手指消毒

手を顔に触れない



会社における

感染症の危機緊急時における リスクコミニュケーションの6つの原則

Be First(速やかに共有する) 情報を伝えるだけでなく、「誰が」伝えるかが重要である Be Right(正しい情報を) 「分かっていること」と「分かっていないこと」の両方を伝える Be Credible(信頼を得る) 「科学的に根拠のある情報」が受け手の信頼を高める Express Empathy(気持ちに寄り添う) 受け手の視点に立って情報を伝える

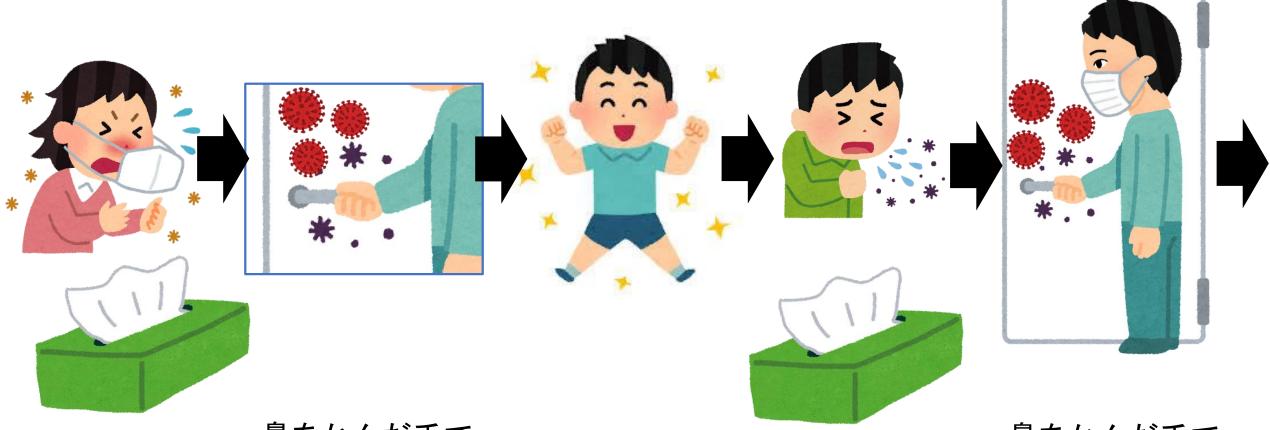
Promote Action(行動を支える) <u>一人ひとりの行動が感染予防</u>につながることを強調する

Show Respect(相手を尊重する) 相手の立場や特別を思いやる伝え方を心がける

会社でしている対策の意味·効果を説明 (なぜ必要なのか?)

2020年4月22日 弊社発表資料

物を介した感染ループ



感染者

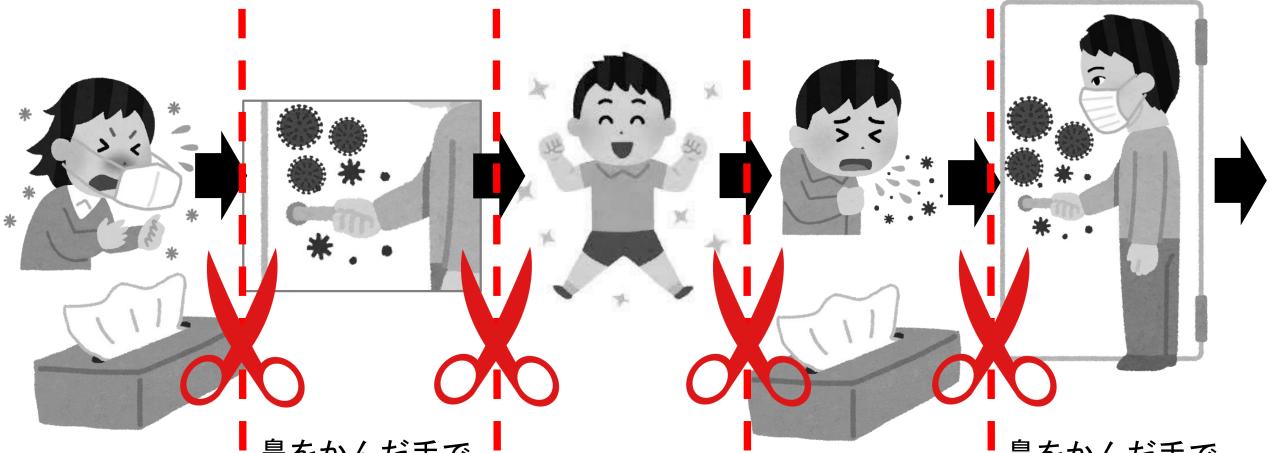
鼻をかんだ手で ドアノブなどの 共用物を触る

元気な人が 共有物を触る

感染する

鼻をかんだ手で ドアノブなどの 共用物を触る

感染ループを断ち切る



感染者

鼻をかんだ手で ドアノブなどの 共用物を触る

元気な人が 共有物を触る

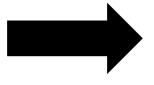
感染する

鼻をかんだ手で ドアノブなどの 共用物を触る

2020年4月22日

感染ループを断ち切る







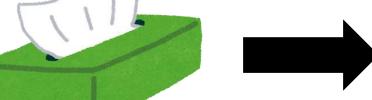
咳エチケット

可能なら手を使用しない





ドアノブ・手すり・ボタンなどの清掃 手指アルコール消毒 手を顔に触れない



鼻かんだら手指アルコール消毒

会社における

感染症の危機緊急時における リスクコミニュケーションの6つの原則

Be First(速やかに

Be Right(止しし

Be Credible(信賴

Express Empathy

当初から誰にでも感染する可能性があることを強調

Promote Action(行動を支える) <u>一人ひとりの行動が感対しる</u>につながることを強調する

Show Respect(相手を尊重する) 相手の立場や権利を思いやる伝え方を心がける

個人的意見:

偏見や差別の根本的な原因は、感染症への理解不足。 産業保健が社員の理解を推進しなければならない。

感染症の危機緊急時における リスクコミニュケーションの6つの原則

Be First(速やかに共有する) 情報を伝えるだけでなく、「誰が」伝えるかが重要である

Be Right(正しい情報を)「分かっていること」と「分かっていないこと」の両方を伝える

Be Credible(信頼を得る)「科学的に根拠のある情報」が受け手の信頼を高める

Express Empathy(気持ちに寄り添う) 受け手の視点に立って情報を伝える

Promote Action(行動を支える) <u>一人ひとりの行動が感染予防</u>につながることを強調する

Show Respect(相手を尊重する) 相手の立場や権利を思いやる伝え方を心がける

十 個人的意見

政府や地方行政の批判はしない(それぞれの意図を汲む) 非医療者意見の安易な否定はしない(丁寧に回答・判断は会社) そうは言っても、専門家としての矜恃を常に持つ

安全衛生委員会が情報発信と合意形成の場

- ▶ 風疹抗体検査と風疹ワクチン接種
- ▶情報発信にはリスクコミュニケーション6原則
- > 安全に振りすぎないバランス重視の対策

病院の標準予防策を軸として考え やることを決め、<u>やらないことも決めた</u>

要望(または検討)があったが、未実施の対策

- トイレのジェットタオル → 明らかな因果関係がなく使用継続
- ・次亜塩素酸水シャワー → 人体への影響や効果不明で不採用
- ・受付での手袋 → 手袋より手指消毒
- ・抗菌玄関マット → 感染経路としてほぼ考えられないので不採用
- 社員全員の抗体検査 → 会社としてのメリットがないので不採用

感染初期の対応

2020年

2021年

第1波

第2波

第3波

マスク毎月配布¹⁾ 体調不良者管理マニュアルの作成²⁾ 手指消毒モニタリング³⁾ 感染マニュアル随時更新⁴⁾

- 1) 当時マスクの在庫が世界的に枯渇していたが、社内備蓄庫に数十万枚あったことと発注していた在庫分で乗り越えた
- 2) COVID19対策本部を立ち上げ、体調不良者マニュアルを迅速に作成 感染者の職場復帰時には、過剰な検査要求(PCR陰性確認)はしていない。 濃厚接触者は体調管理で毎日の連絡
- 3) 社内での手指消毒使用量をモニタリングし、感染者が増えた時に使用量などを確認
- 4) 組合、法務など様々な観点を入れて過剰になりすぎないように工夫した

現在の対応

2021年

2022年

第4波

アルファ株

第5波

デルタ株

職域接種

第6波

第7波

オミクロン株 BA.1 BA.2 BA.4 BA.5

職域接種

マスク配布 体調不良者管理 手指消毒モニタリング 感染マニュアル随時更新

抗原検査 社内利用*

*採用面談時や、役員運転手など機会を絞って利用

室内CO2モニタ 会議室定員の最適化 社外イベント 再開

外での マスク着用解除